

剣道との出会いとこれからの私

長崎県

竹松少年剣道部

小学6年 堤 愛子

「かっこいいなあ」これが私が初めて剣道を見た感想だった。父が剣道をしている姿はいつもと違い、凛としていてとてもきれいだったことを覚えている。私は小学二年生から剣道を始めたが、大変なことの連続だった。着慣れない胴着や袴、重くて動きにくい防具、夏は暑く、冬は素足なので寒くてたまらない。初めは面を打つことがとても怖く、面タオルがうまく付けられずにいつも泣いていたようだ。わからない、できないことだらけから、少しずつわかることやできることが増え、けい古が楽しくなってきた。竹刀があたる音、踏み込む音が心地よかったのか、試合の応援中にねてしまうことがあり、注意されることもあった。

はじめは一人でけい古に行く日々だったけど、小学六年になった今は四年生と二年生の妹も剣道を始め、一緒にけい古をするようになった。まさか妹とけい古できる日が来るとは思っていなかったもので、とてもおどろいた。すると両親が、

「二人が剣道を始めたのはお姉ちゃんが頑張っている姿を見ていたからだろうね。」

と言った。私は何だか照れくさい気持ちになったのと同時に、うれしくもなった。妹とけい古をするようになってから、それまで以上に気を引きしめようと心に決めた。

私は父の仕事の都合で引っ越しが続き、今、お世話になっている道場で四か所目になる。慣れるまでに少し時間がかかるが、いつもすばらしい先生方や仲間にもぐまれて新せんな気持ちでけい古ができています。道場や先生方によって教え方は異なるが、いつも言われることは、礼儀作法の大切さだ。「礼に始まり、礼に終わる」という言葉がある。けい古や試合の始めと終わりには必ず礼をする。礼をするということは、相手を敬い、感謝の気持ちを伝える行為である。試合に勝っても負けても「勉強になりました。ありがとうございます。」の気持ちを込めて礼をする。技術が上達することはすばらしいことだが、剣道はそれだけでなく、立ち方や座り方、そんきょなど所作の美しさもふくめての剣道だと教わっている。これらは日常生活においても役に立つ。私も剣道を始めて五年目だが、あいさつや姿勢をほめられることがある。剣道をしていたおかげだなと思い、とてもうれしかった。

けい古や試合をしていて一つ疑問に思うことがある。多くの競技は点数が入ったり、勝ったりすると喜びを表に出してガッツポーズをしているところをよく目にする。しかし、剣道で同じことをすると一本が取り消されるようだ。どうしてダメなのか、それは相手を配慮する心が足りないからだと言われた。自分自身と一生懸命、試合やけい古をしてくれた相手への感謝の気持ちを持っていれば、ガッツポーズは絶対にできないのではないだろうか。勝っても負けても「ありがとう」という考えは私はとても好きだ。

来年、中学校に入学する。一日でも長く剣道を続けていくために何が必要か。まずはけい古を休まないように体調管理を徹底しようと思う。一日けい古を休めば遅れを取り戻すために何倍も時間がかかると聞く。まずは早寝早起き、食事をきちんと取ることを心がけようと思う。常に周りの人への感謝を忘れず、素直な気持ちを持ち続けることを大事にしたい。自分の力だけでけい古ができている訳ではない。指導して下さる先生方、一緒にけい古する仲間達、生活をサポートしてくれる家族がいてくれるからだ。これから迷惑をかけることもあるかと思うが、剣道を頑張っている姿を見せることで感謝の気持ちを伝えたい。それが一人の剣士として一人の人間としての成長への一歩につながると考えているからだ。そして、いつか四人の妹達と団体戦に出ることを夢見て、日々精進していきたいと思う。